

## 崔 恩瑛 (チェ ウンヨン)

韓国出身

上智大学 文学部文学研究科新聞学専攻 修士課程

### 「平和」とナショナリズム

「平和」とはなんでしょう。

Wikipedia には「平和(へいわ)は、戦争や暴力で社会が乱れていない状態のこと。国際関係において平和は戦争が発生していない状態を意味する。」と書かれています。個人の意見になりますが、ここで書いている「平和」は一部しか扱っていないような気がします。その理由は、ここでの「平和」は武力の戦争の終息のみに視点を当てているような気がするからです。

私が考える「平和」とは、貿易戦争もない、人権問題など存在しない、差別など存在しない理想にしかない共存の一つの形です。つまり、現実では国際関係においても、地域関係においても、個人間でも一時的な共存はあっても私が考える「平和」は永遠に訪れないと思います。

人がいる場所には紛争があり常に矛盾が発生します。過去に『民族の虚構』という本を読みました。その中でも紛争・摩擦に関しての言及がありました。中では、人と人との摩擦・矛盾において、もっとも影響をするのはナショナリズム・自己認識などの問題であり、人間というものは知らない人たちを集めておいてもチームに分けるだけで、瞬間、自分のチームを応援するようになり、そのチームの人になりきり、同じ仲間になるという認識を持つとされています。

現在のように国と地域に細かく分かれていて、さらに宗教、民族、性別、また肌色とかさまざまな条件で人々が区切られている状況では、その場その場で自分をその集団に合わせて自分の立場をさらに決めやすくなっています。要する

に、その個人が所属する集団の利益に妨げるような事件が起こったら人は怒り、その妨害物をなくすために働くとのことです。日韓貿易摩擦の時の日韓民衆の反応も、現在も続く米中摩擦の米中民衆の反応もこれを証明する証拠であると思います。何らかの摩擦が発生した場合、外部の、圧力が強くなるほど、中での団結もより強くなり、その外部の力に向き合おうとするのです。

「平和」は、歴史上常に人によって求められ、憧れてきたものではありませんが、事実上、歴史の流れを見ると、一時的な共存はあっても長年にわたる一私が考える「平和」というものは存在したとは思えません。もっとも人を平等に考えている一平等にしようとしている『聖書』でも差別が存在し、イエスが存在した初期には子供と年寄りと女性は人間として数えませんでした。

また、1600 年代 1700 年代に、欧州からアジアに来ている宣教師たちも、人々に「人は平等」という思想を普及する役割をして、アジアの人権認識の発達に大きく貢献したとは評価されているものの、過去の史料を確認すると初期の目的は人身売買を目的としたとの証拠が多数残っています。そのために、私たちがすべきことは現状に基づいて、日々起こっている事件が発生した場合、影響を最小限にする方法の研究とすでにある法律(国際法も含む)の補完が最も現実的であると思います。

つまり、人が存在する限りでは、危険なナショナリズムは常に同伴し、違いは表に現れるか現れないかの違いのため、現実的に一時の「共存」

可能であっても「平和」は難しい夢かもしれません。

【参考】小坂井 敏晶  
『民族という虚構』ちくま学芸文庫 2021 年 5  
月

以上